

梶山歴史文化館ニュース

Vol. 1 7

2017. 7. 5

■ ■ ■ 自校史教育 充実元年 ■ ■ ■

梶山女学園歴史文化館館長 梶山美恵子

<これまでは・・・>

歴史文化館では平成21年開館以来、自校史教育の推進に努めてきました。小学生・中高生・大学生のゼミやクラスの見学の受け入れ、パワーポイントによる講演、館内ガイド冊子や歴史検定やワークシートの作成、歴史文化館展示品のテーマ別映像化、「梶山歴史文化館山添展示室」の開設など、さまざまなことに取り組んできました。昨年度には「梶山女学園のあゆみ」と題した小冊子を作成し、またそのDVDを全教職員に届けました。

しかしながらこれまでのような取り組みでは限界がありました。他大学ではすでに10年以上も前からカリキュラムの中に自校史教育（または自校教育）を取り入れて学生の学びの意識づくりに成功している例が多くあり、同様な取り組みを本学園でも、という期待がありました。

<これからは・・・>

そしていよいよ大学で今年度から、関係の先生方のご努力下、授業の中で自校史を学ぶ新たなカリキュラムがスタートしました。歴史文化館では今年度のスタートに合わせて、自校史教育の資料にさせていただけるよう、小冊子「梶山女学園のあゆみ」を小・中・高・大学の各一学年全員に配布しました。また自校史教育授業の一環としての館内見学や、課題であるワークシート提出などに積極的に協力しています。

小学校では学年ごとにテーマを決めて自校史教育が実施されています。中学校では、自校史DVDを入学式後、保護者全員に、また、ホームルームの時間に1年生全員に見せるなどの取り組みがされました。開館8年目になりましたが、ここに来て全学園的に自校史教育充実の兆しが出てきているのは大変喜ばしいことです。歴史文化館としては、館の案内の際には学園の歴史を日本や世界の歴史の中に位置づけて学ぶことや、現物に触れることの意義に気づいてもらえるよう留意しながら、今後もいっそう館としての役割を果たしていきたいと考えています。



新しい人間論、自校教育が始まる

梶山女学園大学 文化情報学部教授 米田公則

平成29年4月より、新しい人間論がスタートしました。人間論は全学共通の必修科目として平成10年に開始され、平成20年に共通化がなされ、その中で自校史教育が位置付けられてきました。しかし、これまでは人間論の最初1回のみ各学部長が「自校史教育・人間になろう・教育理念の理解」を内容とする講演を行う形式をとってきました。また、人間論はこれまで各学部単位で行われてきたために、内容のばらつきも大きく、十分な内容となっていませんでした。

そのため、平成27年から人間論の内容・方法などを再検討し、この4月から新しい人間論、そして新しい自校教育が始まりました。これまでの学部単位の教育を改め、星が丘キャンパスでは異なる学部の学生と交流する仕組みを作り、自校教育の回数も1回から3回に増やしました。具体的には椋山女学園の歴史を中心とした自校史教育1回、教育理念「人間になろう」の理解1回を実施し、残りの1回は各担当教員が教育理念を踏まえた人間に関する授業を行う形式をとっています。

その中で、学生各自が歴史文化館を訪れ、ワークシートを行うことを課しています。これにより、学生は授業で話を聞くだけではなく、実際のモノを見学することによってその歴史や理念をより身近に感じてくれていると思います。



授業の最後には課題を与え、自分の意見を書くことを課していますが、おおむね学生は椋山の歴史や教育理念を学べたことを今後の学生生活、そして人生に活かしていきたいと考えてくれているようです。

内容の充実はかなり進んだと思いますが、学生が受動的でなく、自ら積極的に教育理念を学び、日常生活に活かす姿勢をいかに形成するか、そして学部の異なる学生が集まっているクラスの特徴をいかに活かして、内容充実を図るかが今後の課題となっています。



■ 講演会「カリヨンという楽器、カリヨンという文化」 ■

山添キャンパスでは、学園のシンボルである「金剛鐘」が毎朝生徒の手で演奏されています。「金剛鐘」はカリヨンという楽器ですが、そのルーツや文化に改めて注目する目的で、平成29年1月16日(月)、講演会「カリヨンという楽器、カリヨンという文化」を開催しました。講師は、ベルギー在住でカリヨン奏者でもある松江万里子氏です。

松江氏は、カリヨン発祥の地であるベルギーの話や、様々な時代のカリヨン演奏法や音色について、動画を用いて解説されました。自動演奏はベルギーに時計がなかった時代、人々に時間を知らせる役割を果たし、現代も人々の生活の中に根付いているとのこと。その例として、子ども達に信じられているイースターの物語を話されました。また、ベルギーでは、演奏会を含めカリヨンの文化を継承する活動が続けられており、このような活動がユネスコ無形文化遺産となったとのことでした。講演会の後には質疑応答も活発に行われ、講演会は大盛況に終わりました。



生活環境デザイン学科卒業生作品展 開催

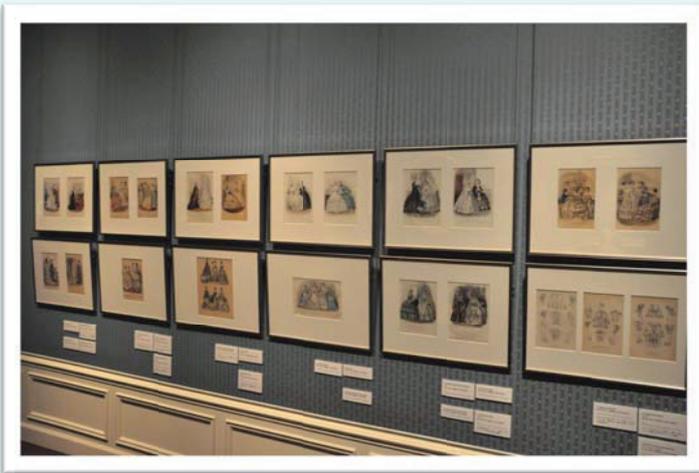
【会場】	椋山女学園歴史文化館（図書館4F）
【期間】	2017年7月9日～2017年10月21日
【開催日時】	毎週水曜日・金曜日 10:00～17:00

～ヤマザキマザック美術館で所蔵品を展示～

歴史文化館が所蔵する裁縫雛形(約550点)のうち、20点をヤマザキマザック美術館(名古屋市東区葵)の展覧会「よそおいの200年」(平成29年4月22日～8月27日)に貸し出し、展示されています。

裁縫雛形は、約100年前、椋山女学園の前身である名古屋裁縫女学校で実寸大の1/3の大きさを制作された授業制作物です。

椋山女学園の創設者椋山正氏が東京裁縫女学校で学んだ裁縫教育における教授法であり、当時の貴重な教育資料であると同時に服装史資料としても非常に価値のあるものです。



歴史文化館では、卒業生からの寄贈による資料として、雛形研究会のメンバーを中心に整理・保管を行い、順次ホームページに公開してきました。

今回、ヤマザキマザック美術館が展覧会を行うに当たり、日本に西洋服装がもたらされた19世紀から20世紀初頭の資料として、当館のホームページから資料を探され、その中から、シャツ、海水浴着、看護服、洋装の子ども服などの裁縫雛形を展示に使用したいとお申し出をいただき、貸し出しを行いました。

また、椋山女学園大学生活科学部滝澤講師のコレクションである19世紀のファッションプレート(当時のファッションの流行を手彩色の版画であらわした図版)等を、歴史文化館の寄託資料として貸し出し、同時に展示されています。

5月19日(金)に文化情報学部見田隆鑑准教授による授業の一環として、学生がヤマザキマザック美術館を見学しました。学生たちは同美術館の学芸員の方から説明を受け、自校史を再認識する機会になりました。



■ まだまだ続く「前畑秀子」関係行事 ■

前畑秀子NHK朝ドラ誘致運動の一環として、和歌山県橋本市、岐阜市、名古屋市が様々な行事を行っています。その中で、この半年間に歴史文化館が関わった行事を紹介します。

I. 公開講演会「前畑ガンバレ！ガンバレ！ニッポン」

平成29年1月29日、イーブルなごやホール（名古屋市中区大井町）において、名古屋市教育委員会主催による公開講演会が開催されました。

最初に、栢山美恵子歴史文化館長が前畑秀子と栢山女学園の関わりと生涯について講演を行い、「今、なぜ前畑か・・・」という問いを考えることが大切であると締めくくりました。また、「写真で見る前畑秀子の全生涯」として、歴史文化館が所蔵する前畑秀子関係写真資料をパワーポイントで紹介しました。

続いて、高橋繁浩氏（中京大学教授・水泳部監督・水泳解説者）、箕輪田晃氏（愛知水泳連盟会長）による、オリンピックの水泳競技で取得したメダル獲得の推移から見えてくる日本水泳界の展望についての講演が行われました。

II. 前畑秀子写真展・パネル展関係

①平成28年12月24日～平成29年1月28日 名古屋市鶴舞中央図書館

②平成29年2月1日～2月10日 岐阜市役所本庁舎1階

この写真展が縁となり、前畑秀子と同じくベルリンオリンピックの水泳選手で活躍した大澤政代選手の義理の弟さんが歴史文化館に来館され、同時期に活躍した水泳選手の貴重なお話を伺うことができました。

③平成29年3月15日～4月16日、名古屋市スポーツ振興会館

「第93回日本選手権水泳競技大会」に合わせた応援フェア（企画展示）

なお、①と③では、和歌山県橋本市のNHK朝ドラ誘致実行委員会により署名活動が行われました。



【編集後記】

企画展「表現としての被服—学生たちのトライ—」では多くの方に足をお運びいただきました。ご協力くださった先生方、学生の皆様に御礼申し上げます。

また、今年度から自校史教育が充実しました。歴史文化館を訪れる学生さんも増加し毎日賑わっています。歴史文化館が、来館された方一人ひとりの記憶に残る、身近な学びの場になれば幸いに思います。

栢山歴史文化館ニュース 第17号

発行日 2017年（平成29年）7月5日

編集・発行 栢山女学園歴史文化館

名古屋市千種区星が丘元町17番3号

TEL 052(781)1186 (代)

052(781)4590 (直)

編集担当者 栢山美恵子 村瀬輝恭 溝口紗恵香